

平成29年度第9回 鹿島区地域協議会 会議録

<地域協議会の日時・場所>

- 1 日 時：平成30年1月29日（月）
午後3時00分～5時30分
- 2 場 所：鹿島区役所大会議室

【 会 議 録 】

1 開 会

○事務局

地域協議会成立要件の確認

委員数14名

【出席委員名】 12名

五賀和雄、丹野常昭、松野豊喜、大塚悦子、豊田ミサ子、
大内 彰、星ちづ子、佃野喜直、西道典、森和浩、菅野行雄、
前田典郎

【欠席委員名】 2名

多田和夫、渡部裕幸

委員の過半数が出席していることにより、本会議が成立していることを確認。

2 会長あいさつ

3 区役所長あいさつ

4 会議録署名人の指名

五賀会長が会議録署名人に佃野喜直委員と森 和浩委員を指名。

5 議事

(1) 協議事項

①鹿島区地域ビジョンの見直しについて

1) 会議の趣旨と実施方法の説明

○鹿島区地域振興課長

これより議事に入ります。(1)協議事項①鹿島区地域ビジョンの見直しについて1)会議の趣旨と実施方法の説明を事務局より行います。

○鹿島区地域振興課振興係長

資料により説明

2) 講師紹介

○鹿島区地域振興課長

次に「2)講師の紹介」今回鹿島区地域ビジョンの見直しについての協議を指導いただきながら進めていただく先生を事務局より紹介いたします。

○鹿島区地域振興課振興係長

紹介

3) 講義

○田口先生

計画策定の頭の整理方法フロー図の進め方の例として私の方でまずホワイトボードを使って説明します。

私が考える鹿島区がどうあるべきかについてですが「子どもの声が絶えず聞こえるまち」なおかつ「活気があるまち」にしていくことが大変重要だと考えます。このために何が問題かといった時に私が考えるのは、結婚しない人が多いという話が出ましたね。結婚問題です。若い人たちの晩婚化が進んでいること、子どもを産まない人やそもそも結婚しない人が増えたことが問題です。これは由々しき問題です。結婚するかしないかは今の時代あまり言ってはいけませんが、ただ子どもは産んでほしいですね。これもセクシャリティな問題になるので言ってはいけませんが。これは日本中の課題にもなっています。また、商店街ですね。商店街が衰退しているというのはイオンの話を例に挙げますが、イオンができたことで若い人が流入してきます。今、モール型のショッピングセンターが当たり前になっていますね。昔みたいなお肉屋さんやお魚屋さん、お豆腐屋さんとかの商店街を使えばどちらかというと郷愁はあるけれども、そこで買い物をしようという若い人たちは少ないですね。

次に交流ですね。交流も男女の交流もありますし、子どもと家族連れで行

けるような場所とかですね。公園。公園があってもそこに行くかどうかは別ですが。良い点で挙げた、高齢者が元気ですし、スポーツ施設も充実しているというようなのでこういった資源を活用していった方が良いのではないか。今婚活婚活と言われていますが、昔のお見合いを体よく言っているだけです。これは単純に合コンをいっぱいしましょうと言っているだけでしかないです。だけど、結婚をするというのは、皆さんお分かりだと思いますがその家族も含めて結婚をしていますよね？なので、合コンで知り合った人となかなか結婚までたどり着くのはそんなにないし、SNS (Twitter や Facebook) などで知り合って会う人たちもいるようですが、なかなか結婚まではたどり着かないです。昔はお見合いをやるときにお節介な人がいましたよね。「もう、そんなことやらなくてもいいのに」と言っても「いいから、いいから。いい人いるから」とお節介なおじさんやおばさんがいて仲介をしてくれました。こういう人たちは今いないですよ？昔は人の噂で「あの人がお見合いしたらしいわよ」なんて聞こえてきましたよね。今は個人情報関係でなかなか難しい部分がありますが、実はお節介制度のようなものを作っている自治体が増えています。わざわざ制度にしなくてもいいのと思うのですが、制度にしないと支援ができないのでこういう形をとっているようです。お節介は結婚に限らず、お年寄りや障がい者が困っているときにお節介をしてくださいといったことを含めてお節介制度としています。商店街も「街コン」という言葉があります。これは商店街の「街」の字を取ってやっているわけですが、街なかを一斉にその日だけは開放して、例えば千円のチケットを買えばどこに行っても飲めますよとかいう制度をしています。これは三重県尾鷲市というところが活発に行っています。尾鷲市は雨が多い所です。私も5回行った内4回雨でした。名古屋から行っても遠いですし、内陸から行っても遠いため人口減少はすごいスピードで進んでいます。ただ、漁師町ですので昔は飲み屋街が凄く充実していました。なので、昔あった飲み屋街を再興させよう復活しようという動きで街コンを行いました。今、商工会の人が力を入れて行っていますがこの中心人物はお酒飲みで自分が飲みたいからやってるんだと思うんですけど。それでもいいんです。「あそこで面白いことやっているから、行ってみよう」という流れになればいいんですよ。「参加者が少なくて」と言っている婚活パーティをよく耳にします。特に女性の参加者が少ないという話です。いうなれば観光に来たついでに尾鷲市のようなことをやっていたら観光と街コンを一緒にやってくれればいいという話になれば、必要になるのは特産品です。これをうまく活用していければ交流人口を増やしていくための策となります。特産品だけではないですが、何かに頼っていく。この特産品開発は若い人が来そうなものを開発していく

とか。商品化していくという動きをまちをあげてやっていくということもあります。そうすると交流が望めて商店街が活性化して効果的には結婚問題が解決できればなという形です。これははっきり言って飛躍しすぎです。ただ、何もやらないよりはましだと。では、私は理想に向けた取組としてこの4つを挙げます。まず1つ目は「婚活マルシェ」というものです。マルシェは市場という意味です。市場を開きましょうと。鹿島区でも市場はやってますか？やっていないですか。例えば特産品でなくても良いので、農産物でも海産物でも良いのでマルシェ（＝市場）みたいなものを開くと。バザーでも良いと思います。それを毎月1回はやりましょうと。それは地元だけではなくて。近隣でやっても良いと思います。トラック市、怪トラ市というのがあります。怪トラでみんなが近くから運んできて「この場所開放するよ」というところに来てもらって売るといいます。それだけでも結構人は集まります。次に「スポーツ大会」これは鹿島区でやってますよね？

○丹野副会長

今はやっていません。

○田口先生

これだけスポーツ施設が充実していますので、ここはぜひスポーツ大会を定期的に行っていただきたいと思います。なんだったら「プロスポーツ選手・オリンピック選手を輩出しよう」くらいの掛け声、スローガンの下にやっていってもいいくらいの話ですよ。スポーツ施設が充実していないところなんていっぱいありますからね？めっちゃくちゃ恵まれているんです。

そして「特産品開発」です。これはチームを組んでやるしかありません。やる気のある若い人で。最後に「子育てバンク」というのを作る。これは、地域の中で子育て家庭に関して資金を融通してあげるものです。最近こういうことが出てきました。給食費未払い問題がありましたね。これは西の方（関西・九州）は結構ひどいんです。そこで、愛媛のある市で考えたのが、その小学校に通う子たちの親はもちろん「給食費を払いなさい」と言っても払わないんですよ。そうすると、その子どもたちに給食を提供しなくても良いかというところにはいかないんです。では、市のお金を入れるかというところだけ特別扱いするわけにはいきません。そこで市は、そこに住む地域の人たちに「こういう状況なんです。つきましては寄付でお金を出してくれませんか」といったところ出してくれたそうです。そんなに給食は高くないので。けど「地域の宝だから親が払えないのであれば、我々がちよつとずつ払ってあげよう」といって、200円・300円ずつカンパしてくれる訳です。それで十分まかなえたんです。ですが、未払い問題は何も解決していません。そういう話もあります。ただ、子育て環境は地域で子どもたち

を宝だと認めるかどうかというところに影響してくるのですが、金融機関をうまく介してあげれば全然現実味がない話ではない。こういったことをやってはどうかと例えば「次の計画の中に入れていきたいという風に思います」と私だったら発表しますという参考です。という形で皆さんにやっていただきたいのがフロー図を埋めていただき、一番下の4つを発表していただきたいです。最低1つは埋めてください。ここにたどり着く一連の流れは上の方で見えてくるはずですので、頭の中を整理してまずは5年後どうあるべきなのか考えてみてください。あるべき姿が書けるとおのずと現状と課題や伸ばすべき特性というのが出せると思います。

～10分作業～

○田口先生

中々難しいですよ。普段から思いのある人はスラスラ書けるかもしれませんが、頭の中を整理してと言われても難しいと思います。このシートはまちづくりをやっていく上で、計画を作っていく上では必ずやっておいた方がよいものです。よく刷り込まれている情報があります。例えば鹿島区は違うかもしれませんが、「公共交通がやはり問題だ」と。いろいろなところから公共交通の話が出ると。だけれどもよくよく見てみると公共交通ってバスが誰も乗っていないのに走っているなという時ありますよね？あれって本当に無駄なお金だと思いますよね？だけれども走らせないと誰からか公共交通公共交通という話が出るのでやっていると思います。これにどれだけ維持費がかかっているかというとたぶん1千万円とかかかっていると思います。そのお金を違うことに使った方がもしかしたら良いかもしれないとかいうこと気づく。事業から考えずにあるべき姿からすると「自分が思っている重点的な課題ではなかったな」という気づきを与えられたりします。なので我々はよく自治体の方をヒアリングをして「うちの課題は国道県道が中々整備されないことなんです。これはもっと陳情をしていかななくてはならないと思うんです」という風に話をされる場所もありますが、実は住民のニーズと違っていたりします。「自分が興味があること」や「思い描いている理想に近づけるためには何をしなければいけないのか」ということを考えていくうえで必要なツールであることを認識してください。これを地域協議会委員である皆さんがやることで意味を持ちます。今まで挙げた課題となる意見を5年間で解決していくことはほぼ不可能です。そんなにお金もありませんし、人もいませんし、鹿島区だけ優先してくれる訳でもないです。なので、ここにいるメンバーで挙がってきている意見の中で「どこに重点を置いてやっていこうか」ということを整理するものとして今やっていただいています。次に

書いていただく実現するためのハードルとして何があげられるのかとなった場合、財政的な問題を挙げる方がいらっしゃいます。財政的な問題をあげてしまうと話は終わってしまいますので、財政的な問題はいろいろ解決策があります。さっき話をした子どもバンクもそうです。市のお金でやろうとするので財政的な問題が出てきます。この問題を挙げる場合は、その後どうしたらいいのかを考えられる場合のみ記入してください。これを前提条件として理想に向けた取組の事業・取組を4つまで記入してください。

～10分作業～

○田口先生

一番早かった星さんからよろしいですか？その後順番で発表していただきたいと思います。

○星委員

鹿島区は保健センターとか施設が凄く充実しているので、お年寄りに声をかけて老人会の生き生きサロンなどに参加してもらおう取組をしています。

○田口先生

それは生涯学習的な意味合いですか？福祉的な意味合いですか？または交流的な意味合いですか？

○星委員

交流です。公園で草むしりをしながら、街角に花を植えてグラウンドゴルフを行えればと思います。

○田口先生

スポーツはどこに分類しますか？

○事務局

教育かと思います。

○田口先生

ありがとうございました。では次に豊田さん

○豊田委員

私の身近な人で30代から40代の方が結婚で悩んでいる人が多いです。そういう人達で良い人を紹介していますが、なかなか結婚まではいきません。結婚できても、若いと収入が少なくて生活ができない。車社会のため車が必要ですが、お金がかかる。子どもがほしくても子どもが病気にかかっても会社の休みが取れない。これについては会社の問題だと思いたしますが、考えてほしいと思います。

○田口先生

事業をやろうとか取組こういうのがあるとかいうアイデアはあります

か？

○豊田委員

特にありません。私がやっていることは悩みを聞いて、情報提供くらいしかありません。

○田口先生

ありがとうございました。次に大塚さんお願いします。

○大塚委員

私の意見みんなと違うかもしれません。よく商店街の人は「農家が振るわないと商店街も盛り上がらない」という話をしておりました。昔は、精算払いみたいなことをやって農家の人々が年1回の支払いで、商店街が盛り上がっていた時代からほど遠く、今は農業で暮らしていけないから商業に務めたりしていますが、実際はこの地域は農業田んぼが主体です。そこで農業で食べていけないということで外部に職を求める。全部につながってくると思います。若い人がいない、後継者不足、子どもがいない、結婚できない、すべてそこが基点になっているのかなと私は考えています。農家でも兼業農家をしながら大学を卒業させて、うちの行政区は2軒に1軒は後継者が外部に就職してはいないんです。後継者がいるのは数えるくらいです。同居してはいないんです。だから、これから5年後どうあるべきか。「大学を卒業して若者が地元に戻って就職できる環境」が理想ではないかと。

○田口先生

それは農業に限らずということですか？

○大塚委員

農業に限らず。やはり魅力がないから都会に住み着くのが現実なのかなと思っております。今、田んぼをやる人がいないのが現実です。就職先も選択できる数があれば良いと思います。農協と役場しかないなんていう時代もあったので。やはり、戻ってきて結婚ができてとなれば子どもの数も自動的に増えてくるのかなと思います。結論としては「働ける会社の誘致」一番遅れているのかなと。新幹線も通っていないければ、高速も1車線ですし、東京まで電車も通っていません。私は農業者の立場から話をしたのでそれぞれ違う考えがあると思います。

○田口先生

ありがとうございます。非常にわかりやすかったです。では次の方お願いします。

○松野委員

私は高齢者の立場から。先ほど田口先生は5年後という話をされましたね。私恥ずかしいのですが、76歳なので5年後は81歳です。今少子高齢化と

ということで、介護施設がなくて入れないという心配をしています。施設があっても個人経営の施設で、例えば1か月15万円とか20万円なくては入れないとかそのような心配をしているもので、やはりなるべく安く入れる介護施設があればなと思います。あとは元は仲人さんがいてあの家の人と結婚しろということで結婚して、子どもを産んだ時代ですが、今はそんな時代ではないからね。今は高齢者として5年後今の年寄りには介護施設のことで悩んでいます。施設を造っても人がいないという問題もありますが、あとは皆さんから他の意見を伺ってください。

○田口先生

では、丹野さんお願いします。

○丹野副会長

私は5年後を考えたとき、今年の誕生日で74歳ですから79歳になります。79歳になったときに今10歳の孫は中学校3年生、11歳の孫は高校1年生、16歳の孫は大学に行っていれば大学2年生、で17歳の孫が22歳ですがこの子達がどのように目指すのかと。今若い男女がいるにはいます。ところが晩婚化で人間対人間の会話が我々の年代からするとできない。スマホや機械でしゃべっているのが、人間対人間の会話ができないせいもあるのではないかと。交流の場としてイベントを行っても若い人があまり出てこない。昨日、地元で餅つき大会を行いました。そう思いました。そして5年後にはこの地区から子どもがいなくなるのではないかと危惧しています。子どもがいなくなるということが自治体がなくなるということです。この間も教育委員会の幼児教育課の課長と係長が来て、平成30年度に上真野幼稚園に入る子どもがいらないという説明に来ました。そういった問題をどうするかと。やはり給食費の問題で幼稚園はお金が掛かるが、保育園は掛からないといったこともやはり、行政との兼ね合いがあるのではないかと私は思っております。なんといたっても子どもがいなくては国が亡びるので、行政とか商工会とかと連携してやっていかななくてはだめなのかなと。昔の仲人さんとか。今の若い人は仲人さんのいうことを聞いて結婚する人はいないと思いますが。その辺の出会いを作ってもらって結婚の推進＝子どもができる→活性化につながる単純な考えです。私はそう思います。

○田口先生

では会長お願いします。

○五賀会長

一つは産婦人科医が少ないこと。子育てについては保育所・幼稚園についての施策が重要視されている。交通は6号線4車線・常磐線の複線化の対応をしていかななくてはならないと思います。それから地域特性を活かさなくて

はならないということで、鹿島区にあっては海・山・川自然豊かです。それから相馬野馬追も特性を活かしながら交流人口を増やしていきたいと。スポーツの関係で施設は相当充実しています。それを利活用するスポーツクラブを増やして人口を増やす。ほかの市町村との施設の連携が必要です。野球場は大変立派ですが、鹿島区1つだけでは大きな大会・高校野球といった大会へは対応できないということです。今風評被害が大変問題となっております。この対策を。また、農業にしる、後継者にしる後継者が不足しています。この確保についても重要です。

○田口先生

たくさん出てきましたが被っているものがあるのも良いのでお願いします。

○大内委員

産業の面について企業誘致について行政でおこなっているようなのでそれを今後も進めていただいて、若者が定住できるような人が集まるものを推進してもらえればと思います。これは、町・役場・商工会が一体となった推進。それから、環境面で私は退職したら釣りや山菜とりが好きなのでそれをやろうと思っておりました。そんな中この事故でできなくなりました。未だにできない状況です。そういったことを含めて5年後については回復できるかと思うのですが、地元の自然や環境面を活かしたまちづくりを受け、再生し昔に戻りたいと思います。スポーツ大会とかも。

○田口先生

ありがとうございます。では次の方。

○但野委員

いろいろ考えたら方向性がめちゃくちゃになってしまいました。まず、雇用の安定として個人事業で事業を興した方。今でいうとIT企業とかを興した方の支援をした方が良いのではないかと。あとは後継者問題で商工を中心に考えました。「車で行ける商店街」ちょっとふざけているかもしれませんが、ドライブスルーで買い物ができるとか。人口流出を少なくするという意味で「子どもたちがここなら住みたいと思えるまちづくりをする」以上です。

○田口先生

はい。ありがとうございます。では次の方

○森委員

先生が言った通り5年後を考えたときに地域医療なんですけど、間違いなく母が人工透析が必要になると医師に言われています。そういった場合、地元で透析を受けるとなると県外に行くしかない。今、目が見えないので車も運転できないので地域医療も施設の充実をしてほしいと考えます。その中で思

ったのは、南相馬市、鹿島区を医師を育てるまちとして高校を誘致したりとかそういう形にした方が良いのかなと思いました。あと、子どもが少ない晩婚・未婚ですね。私の職業は瓦屋で女の子と出会うのはまずありません。今までは街コンとかやっていたと思うのですが、例えば企業が交流をするような機会があれば面白いのではないかと。鹿島町の時代にスキー合宿とかがあったようなんです。町主催なのかは分かりませんが。スキーばかりでなくダイビングなどのイベント企画をやればいいのかなと思います。以上です。

○西委員

理想に向けた取り組みとして鹿島区の子どもたちは馬に乗ったことがある。馬に乗れるようにするといった特性を出す。それには鹿島区に馬に乗れる場所を整備する。もしくは学校での授業で取り入れる。今の小中学校の子どもたちで屋根付きの遊び場があります。小中学生を対象にアンケートを取ったところ、ジャスマールに遊びに行くという回答が多かったです。せっかく遊び場があるので拡張すれば良いと思うのと、例えば楽天チームと月に1回の交流を鹿島でやると。化石がとれるので、放射能で無理かもしれませんが、5年後は化石の入っている岩を遊び場周辺に持ってきて、他の地区から来た子どもたちに化石の採掘をしてもらって学習に役立ててもらおう。こういう場所を作ってあげて他からの誘致につなげる。また、遊び場の近くに大きなプールを作っていつでも遊べる環境ができればいいなと思います。そうすれば子どもたちが遊べる・住める場所だということで人口が少しは増えるのではないのでしょうか。

○田口先生

では、菅野さんお願いします。

○菅野委員

私は英語とかの教育日本一を目指しています。あと一般的なことしか言えませんが、この前山形の東根市に行きましたが、人口が増えていることについて市長さんの話を聞きました。あそこには中高一貫校というのがありました。ここには高校がないので中高一貫校を造って英語やITを含めて3歳から始める。あと馬の文化が素晴らしいと思いますし、二宮尊徳の一番弟子にゆかりのある地ですので、報徳仕法を取り入れた教育。東根市には大きな山に大きな遊具が無料で遊べる場所がありました。そういったことを桜平山で商工会で花植えをしていますからそこに建ててパソコンやゲームをさせないように無料で遊べる外遊び日本一の場を造って家族みんな来れるように健康的な子どもを育んではどうかなと。また「移住しやすき日本一」、空家、使っていない学校などを安くリフォームして安く提供してはどうかなと。日本中でいろいろやっていると思いますので、調べて安い費用で効果があるもの

を研究していただいて造っていく。

それから「健康寿命日本一」ということで老人が生き生きとしたまちづくりを。町全体で体操を行う。これらをやっていないと人が集まって来ないですし、将来もないなと思うんです。皆が豊かで健康で幸せに暮らせるまちづくりを徹底的にやっていないとだめだと思います。

○田口先生

では最後お願いします。

○前田委員

ダブっているのもありますが、まず災害。国道6号線・高速道路4車線化、県道の拡幅、道路にある電柱の地中化。福祉は温泉でなくても温浴施設で、65歳以上が利用できるような宿泊も可能なもの。旅行の料金を補助してもらいたい。来てもらえるから。あとは、交通デマンドタクシー。年をとるとお金もないし、免許証の自主返納をしてしまうと、移動手段が限られます。デマンドタクシーをやるようですが、この見直しをお願いしたい。あとは子どもの教育。子ども手当などいろいろありますが、ひっくるめて教育費の助成を考えてほしいと。あとは農協・役場・商工会仲良くして、お酒を造る。

○松野委員

29年度の意見の中で牛島を含めた漁港のPRとあります。牛島は以前パークゴルフ場がありました。津波で流されて震災後はがれきでいっぱいになりました。そして人も住んでいないのでパークゴルフ場は川子というところに移りました。そのため、牛島をどうするのかということで、南右田の区長さん、鳥崎の区長さん、大内の区長さんそして私が漁協代表で4回ほど委員会を開き審議した中でみんなに親しまれる公園づくりという意見が出ました。まだ着手には至っていませんのでこのビジョンで実現してほしいと思っています。また、後継者問題の話が出ていましたので漁協の後継者として9人入りましたのでご報告させていただきます。

○田口先生

ありがとうございました。

今日はお時間が来てしまいましたのでここで終了になりますが、今やっていただいた作業はそんなに余計なハードルが加わっていない状態で考えていただきましたので、面白いアイデアもたくさん出していただきました。これを役所の方で具体的に事業化しようとする、ものすごいハードルが出てきます。これは、職員さんはいろいろなバランスを見ながら事業化しなければいけないためです。なので、全部が全部できるわけでは当然ありませんが、今挙げていただいたことを深堀していくといろいろな人が関係してこないと実現できない事業ばかりです。危機感を共有していくといっても、今日会っ

た人をお願いをしてもなかなか難しいです。今日来ていただいた地域協議会のメンバーの皆さんはおそらく、危機感は少なからず共有していただけたと思います。それにどうゆう風にこの事業を自分たちが考えていることを計画に載せていくか。全部が当然載る訳ではないので、どこまで載せるのかということも次の会議ではおそらく出てくると思います。そういったことも議論していただきたいと思います。「私が提案したことが載っていない」という話よりも「これをもっとこういう風にしていった方がいいんじゃないか」とか「この事業をやることで、どういった効果が見込まれるのか」ということを考えていく方がよっぽど実のある話であると思います。今日、共通して出てきたのは「子ども」や「教育」でした。これを具体化していく素案を今年度中に作ると聞いていますので、それを踏まえて議論していただければと考えています。次の会議で見ていただきたいのは「この事業をやることで何の効果があるのか?」「何か変わるのか?」「維持できるのか?」とかそういう話です。5年後の姿を今日思い描いていただいたと思いますので、そのための姿が事業からぶら下がっている一覧から見えるのか?見えないのか?というところを主体的に見ていただければと思います。2回にわたりワークショップ形式でやらせていただき、つたない進行で申し訳なかったですが、こちらも大変勉強になりました。ありがとうございました。

○鹿島区地域振興課長

田口先生、どうもありがとうございました。先生には前回のワークショップ、今回の事業までの洗い出しということで皆さんにある程度やっていただいたと思います。この後本日、まちづくり委員会の皆さんからも意見をいただきますが、先ほど田口先生の方からもあったように「この中の事業を具体的にどういうことをやればいいのか」という事業を出さないと具体的にはなっていないと思います。こうやった方がいいという意見について、やったほうがいいことは分かります。我々も思います。では、「どうやればいいのか」「実現するためにはどうすればいいのか」まで案として素案を今年度中に作っていきたいと思っていますので、皆さんから今日出た課題。こういう事業をやった方がいいということを含めて、こういうことをやっていきましょう。という形を作っていきたいと思っていますので、大変短い期間ですが3月までの間に皆さんのご協力をお願いしたいと思います。今日の講義については以上ですが、会長の方から地域協議会として締めの方をお願いします。

○五賀会長

先生方には大変熱心にご指導いただきましてありがとうございました。それでは次第によりまして(2)その他に参ります。①次回の地域協議会の日程についてを事務局よりお願いします。

○鹿島区地域振興振興係長

次回の地域協議会の日程については2月20日（火）午後1時30分からを提案します。内容は鹿島区地域ビジョンについて専門家派遣事業を利用し、小金澤先生に助言いただきながら素案を作成していきたいと考えております。

○五賀会長

皆さん、事務局から提案のあった意見で何かありますか？なければ、提案のとおり実施することとします。

○五賀会長

その他、皆さんから何かありますか？

○松野委員

仮設住宅の備品は仮設住宅に申し込みをすればもらえるのか、取り壊しをしている業者にいえばもらえるのかどちらですか？

○鹿島区産業建設課長補佐兼仮設住宅係長

只今質問いただいた取り壊しを行い、無くなる仮設の備品等については入居者については無くなる仮設に住んでいて取り壊す直前まで住んでいた方については申請をすれば差し上げています。また、無くなる仮設のもので、備品を欲しいという個人の方には被災者の方でなければ差し上げていません。それ以外は行政区でほしいという場合や老人会、NPO 法人などの公の団体で申請をしていただければ差し上げることは可能です。ただ、取り壊しが始まった仮設の備品を差し上げることはできませんので入居者以外でほしい方がいらっしゃる場合は仮設住宅係で対応します。ただ、個人での申請ではなく団体名で申請をしていただければなんとか対応をしたいと思います。

○松野委員

以前質問をした際は「これからは業者に任せただけなので、業者にお願ひしてください」という回答でした。しかし、昨日仮設住宅係に行けばもらえるという話を人から聞いたので質問をしました。

○鹿島区産業建設課長補佐兼仮設住宅係長

今の話は、仮設が取り壊しが始まるまでは申請を出していただければ対応が可能なんですけど、囲いを造って業者が取り壊しの作業が始まると仮設住宅係の方で、その現場から差し上げるとなると事故の危険も出てくるため基本的に廃棄処分となります。なので、取り壊し業者に直接連絡を取ってお願いをしてもらう選択肢もあるかなということでお話しをしたと思います。取り壊しをしている仮設ではなく、今残っている12か所の仮設から持っていく場合は「もう人が入ってくるあてはないのでここは使いません」と県へ募集停止をかけますのでこれを県で受理し終わった後であれば申請を出していただいて、住んでいる方は個人で申請できます。その他の方であれば団体申請

で申請をしていただければ対応をできますよという断片的な話で申し訳ございません。

○松野委員

そういう説明はきちんとしていただきたい。であれば南相馬広報とかで出してもらいたいです。分かっている人だけもらえるようなことになってしまいます。津波で被災された人は倉庫などの備品がほしい人が多いと思います。

○鹿島区産業建設課長補佐兼仮設住宅係長

公開・非公開の話ですが、仮設住宅に入居されていた方に対して備品を生活再建のため差し上げるということはお話ししていました。また、団体申請については県の方と連絡しましてそういう制度があるということではいままです差し上げた経過がありますが、ご指摘があったようにあまり公にはしておりませんでした。今まで口伝えで行政区長さんの中で広まっていった経過もあります。こちらについては鹿島区だけで進めることはできませんので本庁と協働をしたいと思います。ただし、必ずしもオープンになるとは限りませんのでご了承ください。

○松野委員

入居されていた人には言ったという回答でしたが、私も仮設住宅に入居していましたが話を受けていません。これからの申請は受けているということではよいですか？

○鹿島区産業建設課長補佐兼仮設住宅係長

本庁と調整させてください。

○松野委員

分かりました。後で聞きに行くのでいいです。

○五賀会長

その他なければこれを持ちまして会議を終了します。
長時間にわたりご苦労さまでした。

6 閉 会

以上のとおり相違ありません。

会 長 五 賀 和 雄

会議録署名人 但 野 喜 直

会議録署名人 森 和 浩

